

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回 比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあり、輸送機械が回復しつつあることなどから、持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率がおおむね横ばいとなっており、新規求人数が前年を下回っているものの、企業の人手不足感が引き続き高い状況にあることなどから、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回 比較
-----	------------	------------	----------

個人消費	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	7年度は増加見込み	8年度は増加見込み	
企業収益	7年度は増益見込み	8年度は減益見込み	
企業の 景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は衣料品等が低調となっているものの、宝飾品の値上げの影響等により、前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売はカウンター商品等が好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は日用品等が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は園芸等が好調となっており、前年を上回っている。家電大型専門店販売はエアコン等が好調となっており、前年を上回っている。乗用車販売は自動車税環境性能割の廃止の影響等により、前年を上回っている。旅行は国内旅行、海外旅行とも伸び悩んでいる。

(主なヒアリング結果)

- 店舗改装や周年企画を契機とした価格訴求策により、客数は前年を上回っている。一方、根強い節約志向により、消費者の買い控え姿勢は続いており、購買点数の減少は継続している。(スーパー)
- 節約志向の強まりから衣料品は低調に推移しているが、高級ブランドの宝飾品の価格改定に伴う客単価上昇や、外商の売上げの底堅さが売上全体を下支えしている。(百貨店)
- 商品の値上げによる買い控えで購買点数が減少しているものの、新商品の展開や各種キャンペーンなど、販売促進策を講じているカウンター商品が好調となっている。(コンビニエンスストア)
- 中東情勢の緊迫化を背景に、供給不足への不安が高まっていることから、ビニール製のごみ袋や手袋など、日用品の売上げが大きく伸長している。(ドラッグストア)
- 前年に比べ天候に恵まれたことから、植物や肥料などの売上げが伸びている。また、中東情勢の影響により、塗料やシンナーは入荷してもすぐに品切れとなった。(ホームセンター)
- エアコンは、来年の省エネ基準改正を控え、価格上昇の懸念から買い替え需要が高まり、売上げが大きく伸びている。低価格モデルを中心に好調であるが、機能性を重視した高価格モデルにも底堅い需要がみられる。(家電量販店)
- 自動車税環境性能割の廃止に伴う負担減等を背景に、4月以降に納車が集中している。また、これまで受注に制約のあった一部車種で受注が再開していることから、受注台数も伸長している。(自動車販売店)
- 物価高による生活不安の高まりや宿泊費用の上昇を背景に、客数は減少傾向にある。企画型ツアーによる宿泊も前年より動きが鈍く、消費者の旅行・宿泊に対する慎重姿勢が強まっている。(宿泊)
- 海外旅行について、中東情勢不安を理由としたキャンセルはほとんどなかったが、新規の予約は不振に陥っており、旅行取扱額は当面前年を下回る見込みとなっている。(旅行代理店)
- 来店客の買上率は高水準で推移し、前年を上回っていることから、消費者の購買意欲は底堅い。一方、飲食店の利用において、レストランではなくフードコートを利用することで価格を抑える動きもみられる。(専門店)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

電子部品・デバイスはEV(電気自動車)を中心に海外の自動車向けで足踏みの状況にあるものの、海外のデータセンター向けが増加していることなどから、緩やかに持ち直しつつある。輸送機械は国内向けを中心に回復しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける需要を背景に持ち直している。

- データセンター向けは、AI(人工知能)需要の拡大を受けてフル操業を継続しているものの、生産が需要に追い付いていない。生産能力の増強に向けて計画的に設備投資を進めている。(電子部品・デバイス)
- 車載向けは、中国の国内政策の影響などによりEV(電気自動車)市場での競争が激化しており、在庫に過剰感がある。(電子部品・デバイス)
- 人気車種の受注残解消に向けて高操業の状況にあるが、今後は更なる操業度の引上げを計画している。(輸送機械)
- AI(人工知能)向けは、旺盛な需要が継続しており、生産は順調となっている。顧客からの納期の前倒し要請に対応するため、年内は増産を見込んでいる。(生産用機械)
- 中東情勢の影響により、原材料や包装資材などの価格が上昇している。在庫は一定程度確保できていることから、生産への影響は生じていないものの、コスト増加分を価格転嫁できておらず、収益を圧迫している。(金属)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。新規求人数は、前年を下回っているものの、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIは「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。完全失業率は、低水準で推移している。

- 慢性的な人手不足を背景に求人を出す動きがみられる一方で、最低賃金の引上げによる人件費の増加、原材料をはじめとする物価高に伴う収益環境の悪化などを背景として、新規求人を抑制する動きもみられる。(公的機関)
- ハローワークの利用だけでは希望する人材を十分に確保することが難しく、求人掲載先の拡充として民間職業紹介も活用されている。(民間職業紹介)
- 求人募集はハローワークと民間職業紹介の双方に行っているが、応募は民間職業紹介からが大半を占めている。(小売)
- 現場では人手不足感がみられるものの、人員を大規模に増やすのではなく、発注管理のシステム化などにより省人化を進めていく。(小売)

- 設備投資 「8年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期
 - 製造業では、木材・木製品等で減少見込みとなっているものの、情報通信機械、輸送用機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、専門・技術サービス等で減少見込みとなっているものの、金融・保険、宿泊・飲食等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 半導体関連の大型装置の部品交換のほか、新たに製造装置を導入予定であることから、増加見込みとなっている。(情報通信機械)
 - 営業店のスマート化に向けた新たなシステムの導入を予定していることから、増加見込みとなっている。(金融・保険)
- 企業収益 「8年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期
 - 製造業では、非鉄金属等で増益見込みとなっているものの、情報通信機械、食料品等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、娯楽等で増益見込みとなっているものの、情報通信、卸売等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期
 - 現状(8年4~6月期)は、「下降」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - 住宅建設 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、分譲が前年を上回っているものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。
- 足下で高騰している注文住宅価格を見て購入を断念するなど、物価高による生活防衛意識の高まりにより、住宅取得にかかる支出を抑える動きがみられる。(建設)
- 公共事業 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、国、市町村などで前年度を下回っており、全体でも前年度を下回っている。
 - 消費者物価 「前年を上回っている」
 - 金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - 企業倒産 「件数、負債総額とも前年を下回っている」

3. 各県の総括判断

	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
岩手県	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は横ばいの状況にある。
秋田県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費、生産活動は持ち直しつつあり、雇用情勢は足踏みの状況にある。
福島県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しのテンポが緩やかになっている。